



愛ある宕

あいあるところ

令和6年6月19日(水)号

学びの場

愛宕小学校では、ふだんの授業に加え、体験活動や実物・本物に触れる学びの場があります。

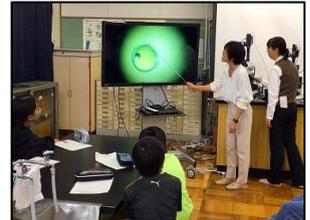
11日(火)は、4・5・6年生と希望された保護者参加のもと、市内で実績のある養護教諭を講師としてお迎えし、学校保健委員会を開催しました。演題は「こころをつなぐなよしコミュニケーション」、ワークを中心とした講話でした。互いの心理的な距離を縮めるワーク「すごろくトーク」「なかよしビンゴ」を行うことで、笑顔と温かな言葉が交わされた時間になりました。講師の先生からの、「たったひとことが人のこころをきずつける」「たったひとことが人のこころをあたためる」というお話を真剣に聞いた子どもたちでした。また、保健給食委員会の司会、アンケートのまとめもたいへん立派でした。集計したアンケートは保健室前に掲示されています。

12日(水)は、全学級対象に「ハッピースマイルズ」のみなさんによる読み聞かせがありました。6月の読み聞かせのテーマは、「6月、父の日、時の記念日」でした。ハッピースマイルズさんの優しい語り口調と、心あたまるお話に引きこまれ、やわらかい表情になった子どもたちの姿が印象的でした。

13日(木)は基礎生物学研究所の助教授を講師としてお招きし、5・6年生対象にメダカ特別授業を行いました。まず、メダカの特徴を説明されました。その後、卵(受精卵)の細胞がふえていく様子を、実物の卵を顕微鏡で拡大しながら観察しました。また、ヒメダカの色が変化する実験を行いました。質問の時間には、「青色のおわんにメダカを入れたら、色はどうなるか」「なぜ卵に毛があるのか」「仲間と交信できるのか」など、子どもたちからの疑問に、丁寧に答えてくださいました。生命の尊さと神秘さを実感できた授業でした。

14日(金)、文化庁事業の一環として、「若き日の徳川家康公像を制作された彫刻家 神戸峰男先生による粘土の授業」を開催しました。神戸先生をはじめ、彫刻家の先生を6名お招きし、4・5・6年生を対象とした授業でした。「手にとって粘土にふれることで、粘土がこうしてほしいと教えてくれる」という神戸先生のお話から、子どもたちの心が動き、好きなもの・興味あるものをテーマに、一つの作品を制作しました。1・2・3年生は直接粘土に触れることはできませんでしたが、彫刻家のお話を聞いたり、上級生の制作の様子を見学したりしました。作品の講評会では、制作した子供の思いや作品のよさを取り上げてほめていただきました。

今後もこのような学びの場も活用しながら、子供たちの健やかな成長のため、教育活動に励んでまいります。



先週末大会にのぞんだ男女バスケットボール部。得られた学びを生かしてステップアップだ！

